



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2023年
4月28日
発行

第176回

「待たれる植田日銀の本格始動」

～植田関連銘柄はこれだ～

初めに

植田日銀新総裁が就任して19日が過ぎました。今のところ何らかの新機軸を打ち出したわけでもなく、スピードの遅さにがっかりしている方もいらっしゃると思います。私もその一人ですが、これには理由があると考えています。今回は、自分が考える植田日銀の行動の遅さの理由と、本格始動した場合に恩恵を受けるとされる銘柄についてお話しします。

インフレ率2%に拘泥した黒田前日銀

現在の日本経済において喫緊の問題と言えばインフレです。3月の消費者物価指数（生鮮食品を除く）の上昇率は3.1%で、伸び率は前月と同じでしたが、依然として高水準です。この高インフレは世界共通の問題です。FRBやECBなど主要国の中央銀行は依然利上げを続けています。一方、欧米の中銀と一線を画し、我が道を行くのが日銀です。欧米に比べて低いとはいえ、日本でもインフレは問題視されていますが、このインフレには関心を示さず、どうやってインフレ率2%を達成するか議論ばかりしてきました。

植田日銀の始動遅れの理由

黒田前総裁は目標達成のために次々と奇策を打ち出しました。ゼロ金利、イールドカーブ・コントロール、ETFの購入もそうです。実際のインフレ率は2%を超えているのですが、黒田氏はこれは悪いインフレだからダメだと強弁したこともあり、どうしたいのか自分は見えてよくわかりませんでした。こうした日銀の政策は市場原理を無視したものが多く、日銀の中でも多種多様な意見があったと想像されます。そうした中、新総裁として日銀に乗り込んだ植田氏は、日銀内部を掌握するのに多大なエネルギーや時間を費やしたのではないかと自分は見えています。であれば、まだ就任して日が浅いこともあり、それほど気にすることはないと最近では思っています。

植田関連銘柄はこれだ

ここからは、植田氏の就任によってメリットがある株、デメリットがある株についてお話しします。まず、メリットが大きいと思われるのは銀行などです。これまでは日銀が異次元緩和を続けていたため金利が低位に抑えられ、収益機会を奪われていました。しかし、植田氏が異次元緩和を終了すれば、収益機会が大きく広がることになります。このように見て、植田関連銘柄としてのメリットが期待できるのは銀行株と考えていますが、他の金融株にもメリットはありそうです。また、円高になる機会が増えると思われるため、電力などエネルギー産業や、原材料価格が抑えられる外食産業などがメリットを受けると思います。一方、デメリットが予想される企業としては、輸出企業全般、また、日本を訪れる外国人観光客が少なくなる可能性があるため、インバウンド関連の企業にも悪影響が出る可能性があります。



チーフストラテジスト
門司さんにきいてみよう!



西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。